

西村翔太郎

Shotaro Nishimura

中学生で目覚め、工房回りで意志を固めた。
ミラノで学び、日本で決意し
クレモナで活躍する若手作家

若手作家として近年、才能を伸ばし、注目を集める西村翔太郎は、高校を卒業してすぐにイタリアへやってきた。NHKの深夜番組でオイストラフのドキュメンタリーを見たのがきっかけだったという。「吹奏楽でトランペットを吹いていたのですが、楽器の製作と考えた時に、あまり魅力を感じなかったんです。ヴァイオリンを面白そうだと思ってからはハマって、中学校三年生の時に、色々な工房を回りました」

京都生まれ、長崎育ち。土地勘のある関西を中心に大阪の岩井孝夫をはじめいくつかの工房を回り、福岡、そして東京の無量塔蔵六も訪ねた。

「日本の学校よりも直接本場のイタリアに行った方がいい」というアドバイスを受け、卒業後はミラノへ留学。「弾くこと」を学びにレッスンに通っていた先で、先生が持っていたガリンベルデイに出会ったからだ。

「オルナーテイとガリンベルデイは900年代のミラノ派の巨頭。家にあったストラディヴァリウスの本と比べ、ミラノ派の方に魅力を感じました。エレガントで美しく、作るならこちらの方がいいな。クレモナの方がカチツとした保守的なスタイルですよ」

2002年ミラノの製作学校へ入学、3年間でカリキュラムを終えたところで迷った。「通訳や日本語学校の先生もしていて、人と直接会う仕事にも魅力を感じていました。日本に戻り福岡で半年勤め

て、やはり作る方にやり甲斐を感じて決めたんです。作って、出来上がった時の喜びとか。自分の楽器を買ってもらって、使ってもらって、また半年後1年後にお会いして、というそういう形での人との接し方がこの業界にはありますし。自分の色々な面での満足も満たせますから」

定住先にクレモナを選んだのは製作環境に恵まれているからだ。ミラノで学んだ「伝統を守るためには革新がなければいけない」を実行するために情報が集まっている場所に身を置く必要を感じたという。

「楽器作りは、見た目は保守的ですが、音響の面では日進月歩なんです。科学的な分析や実験もたくさん行われ、クレモナの情報は圧倒的」

イタリアでの工房経験は無いが、クレモナではダヴィデ・ソーラについての2015年のトリエンナーレ製作コンクールでヴァイオリンの第3位、ヴィオラで入賞。近年のトリエンナーレ入賞常連の実力者だ。内弟子を取らない人だが、足しげく通い、課題を与えられ、ディスカッションをしながら多くのことを考え、得ていった。技術の進歩の著しいアメリカの音響学の解析や木材の研究なども二人で行うという。

ソーラの魅力は西村がイタリアの楽器に感じている魅力と通じる。完璧な楽器を作ることに。美しく丁寧で、しかも「イタリア人の甘いテイスト、人間味のあるテイストをキッチリと楽器に残せる人」な

のだという。技術だけでない味。——それは西村自身の作品にも通じている。

クレモナに工房を開き、その頃、彼は生涯の伴侶にも出会った。クレモナで生まれ育った女性で、偶然にも実家と同じ職業を持つ臨床心理士。土地に根を持ち、今後ますます仕事に没頭していきける。現在、年間ヴァイオリン6本、チェロ2本くらい、たまにヴィオラが平均の製作ペース。

西村は講師やツアーガイドで鍛えた会話術と語学力で、講演会なども行う。「子どものオーケストラ向けに楽器の解説をしたり、作っている様子を見せたり、プロの方やベテランと突っ込んだ話をするのも」

明るい、バランスの良い音を持つ西村



Liutaiio Shotaro Nishimura
59 .idlabrag osroc
yali ANOMERC 00162
Tel. +39-340-489-3298

にしむら・しょうたろう

1983年京都府生まれ。高校時代から独学でヴァイオリン製作を始める。02年よりミラノ市立ヴァイオリン製作学校にてパオラ・ヴェッキオ、ジョルジョ・カッシーニ二氏に師事。ニス塗装技術をマルコ・イメル・ピッチノッティに学ぶ。クレモナにてダヴィデ・ソーラに師事。08年イタリア国内弦楽器製作コンクール学生部門ヴィオラ第3位と第4位を受賞。09年イタリア国内弦楽器製作コンクール・ヴァイオリン部門第2位。10年イタリア国内弦楽器製作コンクール・ヴァイオリン部門優勝、ヴィオラ部門第3位。

の楽器は、もっと弾いてみたいような、個性的な魅力を持つている。「素晴らしいオールドの楽器と聴き比べて思い切りへこむこともあります。F1カーと軽自動車くらいの差があつて、泣きそうになる。少しずつでも技術力を上げて、日本の皆さんにもっと弾いていただきたい」と思っています。期待の若手である。

*1 : Ferdinando Garimberti (1894 ~ 1982)
*2 : Giuseppe Ornati (1887 ~ 1965)